

・水質改善のためには水門の排水はオーバーフローが効果的なのでは？

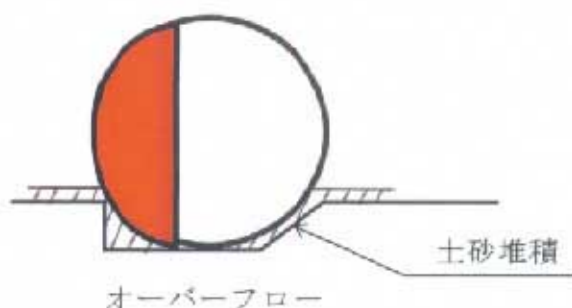
現在、計画しているライジングセクターゲートの場合の排水方法には、以下のオーバーフローとアンダーフローの2タイプが考えられます。

(ライジングセクターゲートの場合)



現水門は引上式ゲートのため排水方法はアンダーフローですが、新設水門についても以下の理由により、アンダーフローで計画しています。

- ・本水門は①防潮②内水排除③平常時の潮止を目的としており、微少な水位調整機能を必要としていません。
- ・放流方法をアンダーフローとした場合に微量の潮水は河川内へ侵入していると思われますが、潮水侵入が問題となるような状況は生じていません。
- ・オーバーフローのみで内水を排除することはできず、3回に1回程度は全開操作が必要となることや、全開排水時に侵入する潮水が内水側の底に滞留することが予想されるため、現状より水質が悪化する可能性があります。一方、アンダーフローの場合は、表面水だけでなく底水も排水できるため、侵入した潮水の排水や水の滞留を少なくすることができます。
- ・オーバーフローとした場合、ゲート周辺に土砂が堆積し、起伏障害の可能性があります。



・本水門の場合、ゲートの高さに対して、平常時の維持水位が低いため、オーバーフローの方が構造規模が大きくなり、コストも掛かります。